食の安全を、世界に誇れる日本の財産に。

平成17年10月31日、松田岩夫参議院議員が新しい食品安全担当大臣に就任され、11月10日の第119回食品安全委員会会合に出席されました。

内閣府特命担当大臣
（食品安全担当）
松田岩夫

食の安全、安心の重要性が高まる一方の今、食品安全委員会の皆様のご努力とご活躍には改めて敬意を表します。

また、発足以来2年以上にわたり、この委員会から発信される中立公正で科学的知見に裏付けられたリスク評価とリスクコミュニケーションのひとつひとつは、国民にしっかり受け止められていると確信しております。

食品の安全への信頼を積み重ねていくその活動は、安心な社会を創っていくものであり、それは日本という国の大きな財産になるものです。現在は日本国民のための仕事でありますが、これはいずれ、私たちと同じレベルでの安心で豊かな生活を望んでいる、アジアをはじめとした世界の人々にとっても、大いなる財産となるものではないでしょうか。

私自身は、そうしたことも考え合わせながら、大臣の務めとして、皆様が思う存分、そうした活動をできる環境づくりをし、お支えしていきたいと思っております。

日本国民の健康のために、そして世界の人々への貢献のためにも、どうぞ、これからもよろしくお願い申し上げます。

食品に関するリスクコミュニケーション

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会

食品安全委員会では11月14日（月）から22日（火）にかけて、全国7都市において、米国・カナダ産牛肉等に係るリスク評価案についての意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、プリオン専門調査会において取りまとめられたリスク評価案について、わかりやすい説明を行うとともに、幅広い関係者相互においてお互いの考え方を表明し、理解を深めていただくためのものです。

意見交換会は、プリオン専門調査会専門委員によるリスク評価答申案のポイント説明に加え、消費者、生産者、食品関連事業者の代表や関係行政機関担当者によるパネルディスカッション、そして会場参加者との意見交換の三部構成で行われました。パネルディスカッションや会場から出された主な意見としては、輸出プログラムの遵守への不安、国内規制と日本向け輸出プログラムの差への不満、国際標準とされている30ヶ月齢未満の牛肉等の輸入再開への要望などがありました。

今回のリスク評価の「結論への付帯事項」にもあるように、リスク評価機関とリスク管理機関の責務の明確化は、今後の重要なテーマです。食品安全委員会は、リスク管理機関において、評価に基づいた管理措置がなされているかどうかを、しっかりと見守っていきます。

http://www.fsc.go.jp/koukan/zenkoku_risk17bse/zenkoku_risk17bse.html

講演会

BSEと牛肉の安全性

コリーヌ・ラスメザス博士
（Dr. Corinne Lasmézas）

獣医学博士。2002年よりフランス原子力委員会医学研究部プリオン病理学研究所長を務めた後、2005年6月よりスクリプス研究所教授。フランス食品庁、保健科学審議会、英国海綿状脳症諮問委員会（SEAC）などの委員を歴任。

11月4日（金）、東京においてプリオン病についての世界的権威であるコリーヌ・ラスメザス博士を招き、BSEと牛肉の安全性に関する最新知見についての講演会を開催しました。プリオン病については、世界的にも発症メカニズム等、未だ解明されていないことが多く、日々、研究が進められている分野です。講演では、プリオン病の種類、特徴、その原因となるプリオンたん白質の伝達の仕組みの解説をはじめとして、BSEと変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の連鎖のメカニズムや経口感染リスク、輸血感染リスク等についてわかりやすい説明がなされました。また、講演後の意見交換でも、BSE検査やBSE発症の原因など、多くの質疑応答が活発に行われました。詳しくは下記ホームページをご参照下さい。

http://www.fsc.go.jp/koukan/risk171104/risk-tokyo171104.html